

The Asahi Shimbun SDGs ACTION!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs (Sustainable Development Goals) = 「持続可能な開発目標」とは、2015年の国連総会ですべての国連加盟国が合意した、2030年までの達成をめざす目標のこと。貧困や教育、健康、環境、技術革新などに関わる17分野の目標と169のターゲットが設定されている。



SDGs × 住友不動産【新築そっくりさん・古民家再生編】



住む人の思いをつなぐ

世代を超えて思いをつなぎ
住み継げる家にするために――。
「新築そっくりさん」の
古民家マイスターが
匠の技とノウハウで
日本の貴重な財産である
古民家を蘇らせていく。



※古民家マイスター 新築そっくりさんにおいて、古民家再生の専門家として古民家物件を担当することのできる住友不動産独自の認定制度

玄関の位置を変えた大胆なリフォームで、日当たりも以前より良くなった森下邸。左から森下祥裕さん、多恵子さん、藤尾和幸さん

古民家マイスターとの出会い

立派な松の梁を巡らせた高い天井とモダンなインテリアが調和する広いリビング。4世代と犬猫たちが一緒に集まれる快適なこの空間が、元々土間だったというから驚く。リフォームを手掛けたのは住友不動産の新築そっくりさん事業本部で「古民家マイスター」として、約30棟の古民家を再生してきた藤尾和幸さんだ。

兵庫県姫路市の森下邸は、築180年、144坪という大きな日本家屋。オーナーの祥裕さんの妻である多恵子さんがひびきを痛めて階段の上り下りがつらくなったこと、お風呂をはじめてとした水回りが古くなっていたことなどからリフォームを検討するようになったという。偶然入っていたチラシをきっかけにショールームを訪れた2人が出会ったのが、古民家マイスターの藤尾さんだった。もともとは、離れの棟のリフォームを検討していた森下さん夫婦だったが、森下邸を見た藤尾さんは、母屋のリフォームを提案。その設計図は、玄関の位置を移動させ、土間を広いリビングにするという大胆なものだった。

「土間の梁を見た際に、これは天井の内側にも立派な梁があると確信しました。現在の家づくりでは使うことができないような立派な1本の木から作られた梁を生かしたいと思っただけです。4世代が集まる森下さん宅には、暖かく広いリビングが必要だという思いもありました（藤尾さん）」



広く暖かく生まれ変わったリビングは家族のお気に入りの場所

天井の梁を眺めて しみじみ良い家だと感じます

「希望していたものと違う提案が出てきたので、初めは戸惑いました。でも、この家の良さを私たちよりもよく理解している藤尾さんの提案なら間違いはないと信じ、色々と相談させていただきながら、細部まで一緒に決めていきました。リフォームして本当に良かったと、ふとした瞬間に天井の梁を眺めながらしみじみ感じます（祥裕さん）」

「リフォーム前は床からの隙間風が冷たく、冬になると足元が冷えました。床暖房が入ったリビングは、みんなが集まれるくつろぎの空間になりました。孫も犬も猫も、この部屋でゴロゴロするのが大好きです（多恵子さん）」

選ばれ続ける 「新築そっくりさん」

「新築そっくりさん」では、リフォームと併せて耐震・制震補強や断熱工事を実施する。築年数が経過し、機能や快適性が低下した古い家を建て替えることなく、家族の命や健康を守る快適な家にするのが可能だ。また、建て替えよりも大幅に廃棄物などを削減できるというメリットがある。家族構成の変化や世帯の暮らしに合わせた住空間にリフォームすることによって、家を長持ちさせることにつながる。つまり、持続可能な社会の実現に貢献することのできる選択といえるだろう。



土間だった玄関をリビングに変更する大胆な提案

